学校法人 大阪音楽大学広報誌

Muse

vol.215
2010 December
発行／学校法人 大阪音楽大学
編集／広報誌編集部
〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8
TEL／06-6334-2131 FAX／06-6334-2141
URL http://daion.ac.jp
発行日／2010年12月22日

オペラ「欲望という名の電車」の一場面（11月12日）

2015年 楽 創立100周年

CONTENTS

20世紀オペラ「欲望という名の電車」　大学定期演奏会　ほか ……10・11
林佑子さん　全日本学生音楽コンクール全国大会で1位 ……14

■米山信教授、柿木功教授が教育功労者に ……2
■吹奏楽で活躍する先輩たち ……3
■伊のコンクールで1位　マリンバ　大森香奈さん ……4
■連載「校史点描」＜16＞ ……5
■特別講義　弦楽四重奏　ギター　ほか ……6
■大阪音楽大学の催し ……7
■石橋栄美助教 大栗作品に出演 安藝榮子講師 子ども体験事業に参加 ……8
■邦楽演奏会　オータムコンサート ……9
■丹波の森コンサート ……12
■音楽の宝石箱　音楽・心の旅 ……13
■岡村哲朗さんが松方ホール音楽賞 ……15
■新刊紹介　青柳いづみこ教授　ほか ……16
■入試ナビ ……17
■卒業生便り　松平季子さん　石田文子さん ……18
■公開講座フェスタ　白石知雄講師 ……19
■ミュージアムコンサート ……20

短大教育功労者を表彰

本学から米山、柿木教授

文科省

短期大学制度発足60周年を記念して、文部科学省は全国の短期大学教育で特に功労のあった方々を表彰しました。本学短期大学部からは米山信教授（ピアノ）と、柿木功教授（声楽）が栄えある教育功労者に選ばれました。10月22日、東京・飯田橋のホテルグランドパレスで高円宮妃久子殿下ご出席のもとに行われた記念式典で、文部科学大臣の表彰を受けた両教授から喜びのメッセージをいただきました。

記念式典の会場にて
米山教授（左）と柿木教授

「このような表彰をしていただけるとは、本当に思いもかけないことで光栄です。音楽は実学ではありません。でも人間を豊かにするかけがえのないもの。それを受け取り、味わい、さらに進めて自己の表現を通じ、他の人に夢や喜びを与えられる学生を育てられれば幸いです」と語る米山教授。短期大学部で36年間ピアノの指導に携わり学生部主事、図書館長などを歴任。きめ細かく熱心な指導は学生からの信頼も厚く、音楽家育成に傾倒する情熱、さらにピアニスト、指揮者として音楽を通じた社会奉仕活動に積極的な姿勢が高く評価されました。

「今年度末で定年退職を迎えるという時期に、栄誉ある表彰までお受けして本当に感謝しております。短大2年間の完成教育ですから、できるだけ多種多様な歌曲、アリアを教える凝縮した授業、学生を型にはめず、大きく個性を伸ばす指導を心がけてきました」と感慨ひとしおの柿木教授。大学、短大双方で教えた柿木教授は、短期大学部で19年間声楽を指導し、短大専攻科主事、演奏部長、声楽教育主任を歴任。教員からの人望も厚く、学生とのコミュニケーションを大切にした指導、自ら演奏家として模範を示す姿勢、学外においても関西歌劇団理事長としての活動、教育研究の充実に寄与した功績が評価されました。

油井成行名誉教授に瑞宝中綬章

教育改革に献身・逸材育てる

本学の油井成行名誉教授（声楽）が、平成22年度秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章、11月9日に東京・国立劇場で伝達式が行われました。大学教授として音楽教育の充実、教育改革に献身的に取り組み、オペラ界の逸材や優れた教育者を育成、音楽の啓蒙に努めた功績が称えられ、受章されました。

油井名誉教授は56年に大阪音楽高等学校教諭、その後大阪音楽大学講師、助教授を経て71年に教授に就任。声楽部会主任、教務部長などを歴任し、97年に定年退職するまで41年間、本学の発展に大きく貢献されました。教務部長在任中は、数々の教育改革を実施。学生の志向と特性を生かしたコース（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類）を開設しました。現在バイエルン州立歌劇場の専属歌手として活躍する中村恵理さんは、演奏家志向のⅡ類出身で、改革が実を結んだ成果の一つ。油井名誉教授には高校生のときからレッスンを受けていました。

ロマン派歌曲に傾倒

広島出身の油井名誉教授は広島カープの大ファン。「カープが負けた翌日のレッスンは気をつけるように」と門下生の間でささやかれていたそうです。声楽家としてはドイツ・ロマン派歌曲に傾倒。受章について「主任の時も、教務部長の時も、柿木先生や橋口先生ら周りの先生や職員の方々に助けられ、ご相談しながら務めてきました。受章できたのも大学のおかげ、家を守ってくれた妻のおかげと感謝しております」と謙虚なお人柄がにじむお言葉でした。

本学が「大学生の就業力育成支援事業」に選定

文部科学省が公募した平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」において、本学が申請した「事実にもとづく日本語ライティング能力」が、審査の結果、選定を受けました。この事業は厳しい雇用情勢の中、大学・短期大学において実学的専門教育を通じ、学生の卒業後の社会的・職業的自立を図る大学の教育改革の取組を、国が支援するものです。全国から441件の申請があり、180件が採択されました。採択された取組には原則として5年間、国から補助金が交付されます。音楽大学における学生の就業力を高める、新たな取組の成果が期待されます。

Great Teachers of Wind Band vol.1

吹奏楽の世界で活躍する先輩たち

全国の吹奏楽部の中高生がめざす「吹奏楽の甲子園」、第58回全日本吹奏楽コンクール（全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社主催）が東京・普門館で開かれ、本学の卒業生が指導する中学や高校が、次々と金賞・銀賞の栄誉に輝きました。まず10月30日に行われた中学の部では、本学出身の須藤卓眞教諭が指導する千葉・松戸市立第四中学校が金賞、永田隆博教諭の神戸本庄中学校が銀賞を受賞。翌10月31日に行われた高校の部では、梅田隆司教諭の大阪桐蔭高校が金賞、小野川昭博講師の明浄学院高校、中川重則教諭の岡山学芸館高校が銀賞を受賞しました。愛媛県民文化会館で10月23日に行われた大学の部では、茶屋克彦さんが指導する立命館大学が銀賞、24日の職場・一般の部で渡辺秀之さんの宝塚市吹奏楽団が銀賞を受賞しました。

全国大会で金賞・銀賞に輝く

また同コンクールの出場者を決める関西大会には、参加1597団体の中から本学出身の椋尾豊、籠野徹、南由賀、永澤譲、泊政和、陣内亜紀子、中村一廣、深田哲也、西尾隆司、戸田直夫、有馬博隆、松田健司、林選也、中川知久、伊藤昌、藤本佳宏、竹谷将幸、潮見裕章のみなさんが指導する団体が、地区大会、府・県大会を勝ち上がって出場しました。吹奏楽のメッカといわれる関西で、今、多くの先輩たちが指導者として活躍しています。

大阪桐蔭高校 吹奏楽部 総監督 梅田隆司（79年大卒 声楽）

今年、大阪桐蔭高校は全日本吹奏楽コンクールでみごと金賞を受賞。創部わずか5年で金賞に輝いた昨年に続き、2年連続の快挙を成し遂げました。出場した55人の生徒を栄冠に導いたのは、吹奏楽部総監督の梅田隆司教諭。課題曲は「吹奏楽のための民謡『うちなーのていだ』」（長野雄行）、自由曲は「レクイエム」（G・ヴェルディ）を演奏しました。昨年は「カルミナ・ブラーナ」（C・オルフ）。いずれも原曲はドラマチックでスケールの大きな合唱作品です。声楽出身の梅田総監督のセンスが光る選曲と音楽づくりが、他校とは一線を画す魅力を引き出したのでしょう。

梅田教諭は、本学の学生の頃、

3年間（77年～79年）にわたり自治会副会長・会長などを務め活動。卒業後すぐに公立の中学校（大阪市立港中学校、同生野中学校、同城陽中学校）で27年間、吹奏楽部の顧問を歴任。全日本吹奏楽コンクールには計5回の出場を果たしました。芸術コースに力を入れ、授業と部活を連動させた吹奏楽部を創設した大阪桐蔭高校の吹奏楽部総監督に就任したのは5年前のことです。当時吹奏楽部は創部2年目で、部員は約80人。3年生はまだいませんでした。梅田総監督は中学校教諭時代の同僚や教え子

創部5年で栄冠に導く

など豊富な人脈を生かし、各楽器に若手で実力あるトレーナーを呼び寄せるなど手腕を発揮。着任早々、全日本吹奏楽コンクール関西支部大会を突破して、全国大会への出場を果たしました。現在は部員160人。顧問の冨森稔子講師も本学出身です。音響設備の整った専用の練習ホールも建設され、恵まれた環境で吹奏楽に打ち込んでいます。

「桐蔭の特徴はシンフォニックなサウンドであること。それはとても大事にしています。生徒は、もともと吹奏楽がやりたくて入学しますから自主性が豊か。その気持ちを大切に、自由なのびのびとした雰囲気の中で一緒に音楽をやってきました。今回の『レクイエム』は、大音出身の西本智実さんが『レクイエム』を指揮する演奏会を全員で聴きに行き、生のすばらしい演奏に触れたので、しっかり取り組めたと思います」と語る梅田教諭。「吹奏楽はクラシックもポップスも演奏できるところがいい。梅田先生はおもしろくて、練習ではよく"歌えー！"と叫ばれます。コンクールでは〈魅せる・聴かせる・伝える〉演奏をみんなでめざしました」と副部長の松井翠さん（高3 ハープ）。

イタリアの国際コンクールで見事1位に

ドイツ留学終え帰国に花

新進気鋭のマリンバ奏者、大森香奈さん（07年院修）が留学していたドイツ・ミュンヘン音楽演劇大学の大学院を首席で修了。9月3日から12日までイタリア・フェルモで催された国際打楽器コンクールのマリンバ部門で見事1位に輝き、帰国に花を添えました。

大森さんが同大学院に入学したのは08年9月。打楽器では日本人初の留学生で、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団のティンパニー奏者で、世界的な打楽器奏者のペーター・ザドロ教授に師事しました。

◇始めの1年間は教授に馴染めず◇

教授の教え方は非常に厳しく、毎回のレッスンでも完璧な演奏と、言われたことをその場で修正することが要求され、最初の1年はその厳しさと、自分の演奏スタイルとのジレンマで自分を見失い、レッスン前は緊張から食事ものどを通らないほど。しかし、レッスン以外では学生を引き連れてビールを飲みに出かけるなど、気さくな一面もありました。

また、学生数より練習室や楽器の数の方が多く、一人一部屋以上、24時間いつでも練習できるという大変恵まれた環境でした。学内外でのリサイタルや教会での演奏会依頼も多く、そこで委嘱作品を演奏しました。普段は朝10時から夜10時まで、リサイタルやコンクール前は、深夜1時、2時まで練習。

マリンバの大森香奈さん（07年院修）

イタリアの国際打楽器コンクールの会場で

ミュンヘンには有名なバイエルン州立歌劇場などがあり、入場料は学生約300円でいつも満員。シンフォニーホールのほか、大・中・小のホールが数多くあり、ミュンヘン・フィルハーモニーのメンバーだった友達に裏口から入れてもらうこともありました。

◇他国の留学生とサルサの踊りも◇

留学中は、特にイタリア、セルビア、ブラジルなどの留学生たちと仲良くなり、それぞれの国の料理を作ってパーティーをしたり、お互いの国の言葉や文化を教え合ったり。「この曲はこんな民族舞曲が基になっている」と言って踊ったり、曲の背景にある歴史を教えてもらったりしました。スペインやジャマイカの友達とは「フラメンコ」や「サルサ」の教室に一緒に通い、学校以外でもいろいろな文化に触れました。

困ったのは卒業リサイタルを控えたある日、高熱が続き入院したことでした。「おかゆが食べたい」と思っても病院食はソーセージや肉の塊などのバイエルン料理ばかり。友人が交代で付きっきりの看病をしてくれたお陰で、無事卒業リサイタルを終えました。この時、たくさんの打楽器と共に風鈴やおリンを使ったセルビアの作曲家からの委嘱曲「さまざまな感情」(Varying moods)やフラメンコの足技を用いた「シギリア・ヒターナ」などを演奏しました。ザドロ教授から「香奈の持ち味を出し切ったスーパー演奏会だった。君は才能あふれる音楽家だ！」と言ってもらい、大森さんは「教授の厳しさの裏には深い愛情があったのだ、とこの時感じました」と言っていました。

◇5部門で最高点 特別賞も受ける◇

イタリアのコンクールでは大森さんのためにブラジルの作曲家によって書かれ、世界初演となる「MAGATAMA」など計6曲を演奏、100点満点中98・34点で、5部門の中で最高得点を獲得し、審査委員長特別賞と楽器メーカーの特別賞も受賞。ドイツ、イタリア、それに米国の新聞にも掲載され「これまでの成果が発揮された結果だ。僕は君を誇りに思う」と教授も喜んでくれました。

来年1月にドイツ、2月にスイスでソロやデュオのリサイタルを予定。大森さんは「素晴らしい先生と多くの友人に恵まれ、様々な文化に触れることで、改めて日本のよさや、自分にしみ込んでいた日本の心を再発見することができた、とても密度の濃い2年間でした」と話しています。

大森さんのオフィシャルウェブサイトは http://kana-mallets.monnouchi.net/

校史点描〈16〉

創立百周年に向けて

永井「家庭音楽が貧困」

流行歌好む学童

社会も目新しさに走る

1933年（昭和8年）4月27日、東京・日比谷公会堂で催された「第四回オール日本新人演奏会」に大阪音楽学校が神戸女学院とともに初参加しました。本校で選ばれたのは本科ピアノを卒業したばかりの辻正子です。この時、東京音楽学校から出演した増永丈夫は、2年前の31年（昭和6年）に古賀政男作曲の流行歌「酒は涙か溜息か」で大ヒットを飛ばしたあの藤山一郎です。学童が唱歌より流行歌を好んで歌う世相に、大阪音楽学校校長の永井幸次は「家庭音楽の貧困が原因」と断じています。

（文中敬称略）

オール日本新人演奏会は音楽界への登竜門で、著名な音楽人はほとんどこの門をくぐっているとさえ言われています。辻はF・ショパンの「即興曲嬰ヘ長調 作品36」とF・リストの「二つの演奏会用練習曲」から『森のざわめき』を好演しました。

27年（昭和2年）から本校の教壇に立っていた永井の女婿である長井斉は辻の東京行きに付き添い、このように書き残しています。

「今と違って、大阪から東京へ演奏にでかけるのは当時としては大変なことだった。それにどうしたことか、学校内でもあまり宣伝していなかったらしく梅田駅（大阪駅）から夜行に乗ったのは、付添の私と本人の二人きり。その上、見送りはお母さんただ一人といった寂しさだった。今にして思えば、時代の相違かもしれないが随分変な話だった」

この前後に流行歌が盛んになります。先鞭をつけたのは浅草オペラでした。また、29年（昭和4年）には声楽家の佐藤千夜子が「東京行進曲」をヒットさせ、日本初のレコード歌手になったといわれています。これに続いたのが東京音楽学校の声楽科に在学中だった藤山で、電気マイクの特性を生かした彼の歌唱に大衆が魅了されました。昭和初期に一番人気があったのは藤山と、「赤城の子守唄」や「国境の町」がやはり大ヒットした東海林太郎だといわれ、流行歌の作曲家や作詞家、歌手が次々とデビューするようになりました。

永井幸次校長の授業風景（撮影年代は不詳）

こうした世相に永井は34年（昭和9年）8月25日付の大阪毎日新聞で次のように語っています。

学童が唱歌より流行歌を好んで歌うということは、教育上困ったことに違いないが、レコード全盛の現状では必然的な現象だといえる。唱歌は学校でせいぜい1週間に1時間ぐらいしか習わないのに、流行歌は家庭の中でも街頭でも、毎日のように聞かされる。唱歌の中には歌えば歌うほど味の出てくる古典のいいものが少なくないのだが、流行歌のような興味とあまさがない。そこで、大人も子どもも目新しい華やかなほうに走ってしまう。

これは古いものを時代遅れの名で捨て去り、新奇なものばかりちやほやする日本の社会的通弊にも責任がある。レコードの隆盛によってなるほど日本人の音楽に対する耳は際立って進歩した。しかし、その製作方針が営業第一主義になってしまっては唱歌教育上におよぼす害毒も軽視できない。なるほどレコード会社は児童のためにいい唱歌を吹き込んだレコードもたくさん出している。しかし、その吹き込みの多くは素人向きに歓迎されるため、下手なオーケストラなどでにぎやかにはやし立てた俗っぽいもので、歌う声も子どものかわいらしさを失ったキンキン声ばかりである。

また、日本に「家庭音楽」がないことも流行歌が跋扈する一つの原因だと思う。外国では父も子も祖母もそろって同じ曲を歌うことが多い。ソプラノを娘、アルトを母、テノールを兄、バスを父で四部合唱をする家庭さえある。ところが、日本では家族がそれぞれ年の違いによって歌う音楽がまちまちだ。子どもが学校で習う唱歌は家族のだれも歌わない。合唱できるのは結局レコードから覚えた流行歌だけということになる。

特別講義

ピアノ

上田　晴子

10月28日　F号館434教室

パリ国立高等音楽院ピアノ科、室内楽科准教授の上田晴子氏が、公開レッスンを行い、大学音楽専攻科生8人が受講しました。テュイレの「ピアノと木管のための六重奏曲　作品6」を演奏した戸田恵さんには「アンサンブルでピアノの音量を抑える個所では、ハンマーと打鍵の距離が短くなるアフタータッチのあたりで、小さな音でもクリアに弾くといい。和音を弾くときは、上の音だけでなく、内声やバスを出して表現を変えると深くなる」などと指導しました。

小さな音をクリアに

弦楽四重奏

アミチ弦楽四重奏団

11月13日　O号館101教室

クリーヴランド管弦楽団のメンバーで結成されたアミチ弦楽四重奏団が来日を機に、本学で公開レッスンと特別演奏を行いました。ショスタコーヴィチの「弦楽四重奏曲　第7番」を演奏した松田佳奈さん（院2）、山田聖華さん（院2）、小澤沙緒里さん（演奏員）、川勝美歌さん（大4）は「音がきれいすぎるから、もっとアグレッシブに。二種の楽器でオクターブのユニゾンを弾くときは、上の奏者はふわりと漂うように、とけこんで」などと指導を受けました。

アグレッシブな音を

ギター

福田　進一

11月16日　O号館103教室

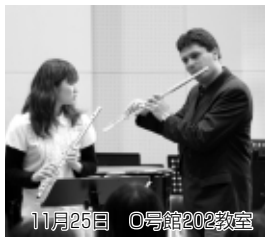
「ここは一番感動するところ。ゆったり弾かないと。拍の頭はしっかり呼吸して。呼吸しないとオーケストラが入れません」

福田進一氏は日本を代表する国際的ギタリスト。この日はギター協奏曲の中でも重要なレパートリーの一つH・ヴィラ＝ロボスのコンチェルトを取り上げ、短大専攻科の林久登さんにオーケストラと共演するときのポイントについて指導しました。「この曲はすごく幻想的な曲。機械的に弾かず、もっとフリーに。もっと歌って」とも。

合奏のポイント指導

フルート

ヴァンサン・リュカ
Vincent Lucas


11月25日　O号館202教室

パリ管弦楽団首席フルート奏者をつとめるヴァンサン・リュカ氏が、公開レッスンとミニ・コンサートを行いました。モーツァルトのフルート協奏曲K313を演奏した安藤香菜子さんは「音が奥へ飛ぶように、息を詰めて音を押さずにリラックスして楽に出る音色を探してください。モーツァルトは曲が始まったとたん、お祭り騒ぎのように生き生きと。いつも柔軟性を持って自由に、でも明確なパーソナリティーを持って」などとアドバイスを受けました。

柔軟で自由な表現を

クラリネット

パスカル・モラゲス
Pascal Moraguès

12月1日　O号館103教室

パリ国立高等音楽院教授、パリ管弦楽団第1ソロクラリネット奏者で、本学客員教授のパスカル・モラゲス氏が6人の学生に公開レッスンを行いました。アーノルドの「ソナチネ」を演奏した奥田和希さん（大3）は「この作品はコントラストをはっきり。アーティキュレーションはパーカッションのように短く。ジャズ的要素があるから、弱拍のアクセントをきかせ自由に楽しむように。高音は、息の量ではなくスピードと圧力をしっかり」などと指導されました。

ジャズ的要素を強調

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団
登録団員募集

募集パート　ヴァイオリン　2人
ヴィオラ　1人
ファゴット　1人

応募資格
大阪音楽大学・大学院・音楽専攻科・短期大学部・短期大学部専攻科卒業の方
（2011年3月卒業見込みを含む）

試験日　2011年2月10日（木）

選考方法　実技試験　面接
（詳細は募集要項でお確かめください。）

応募締切
2011年1月22日（土）消印有効
※郵送に限ります。

＜お問い合わせ・応募書類の提出先＞
〒561-8555
豊中市庄内幸町1丁目1番8号
大阪音楽大学　コンサート・センター
ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団
オーディション係
☎06-6334-2131（代表）
窓口受付時間　平日9時～17時
土曜9時～15時

大阪音楽大学の催し

2010年度大阪音楽大学短期大学部

電子オルガンコース・コンサート「フライング・ライブ2011」

1月9日(日)17時　入場料1000円　ザ・カレッジ・オペラハウス
出演　電子オルガン・コース生

ポピュラーコース・コンサート

1月29日(土)19時　入場料1000円　梅田芸術劇場　シアター・ドラマシティ
【チケット取扱い】チケットぴあ　☎0570-02-9999　Pコード125-708
大阪音楽大学コンサート・センター　☎06-6334-2242
出演　ポピュラー・コース生

ジャズコース・コンサート

2月16日(水)18時30分　入場料1000円　ミレニアムホール
出演　ジャズ・コース生

ミュージカルコース公演「'11ミュージカルへの招待」

2月21日(月)18時　入場無料　要整理券　ミレニアムホール
出演　ミュージカル・コース生

第22回　大阪音楽大学学生オペラ

W.A.モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」

(全2幕　原語上演　字幕付)

2月19日(土)18時　2月20日(日)14時
指定席　ザ・カレッジ・オペラハウス
入場料　一般2000円　シルバー・小・中・高校生1000円
*本学学生の家族、幸楽会、付属音楽院会員はシルバー料金と同額とします。
指揮　小田野宏之　演出　中村敬一
合唱　大阪音楽大学合唱団
管弦楽　大阪音楽大学管弦楽団

◆キャスト◆	19日	20日
ドン・ジョヴァンニ	岩瀬昌弘	馬場亮太
騎士長	楠木　稔(演奏員)	楠木　稔(演奏員)
ドンナ・アンナ	臼井直美	中原美幸
	樋川　綾	森屋　結
ドン・オッターヴィオ	小林　峻	伊藤　寛
ドンナ・エルヴィーラ	野口麻衣	田主容子
	林　佑子	勝山幸菜
レポレッロ	的場正剛	藤川晃史
マゼット	楠木　稔(演奏員)	髙曲伸和
ゼルリーナ	川口りな	南　美里
		喜多ゆり

大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 第8回　ザ・ストリング・コンサート

3月9日(水)18時　全自由席　ザ・カレッジ・オペラハウス
入場料　1000円
指揮　上塚憲一
弦楽合奏　大阪音楽大学／短期大学部弦楽器専攻生

ザ・カレッジ・オペラハウス第25回推薦コンサート 八軒康浩とその仲間たち ～アンサンブルの妙～

1月16日(日)14時　全自由席　ザ・カレッジ・オペラハウス
入場料　一般2000円　シルバー・小・中・高校生1000円
*幸楽会、付属音楽院会員はシルバー料金と同額とします。
ヴァイオリン　八軒康浩　　ヴィオラ　辻田結城彦
チェロ　高瀬恵理也　　ピアノ　松村則子
P.I.チャイコフスキー:ピアノ三重奏曲　イ短調　作品50
「偉大な芸術家の思い出に」
J.ブラームス:ピアノ四重奏曲　第1番　ト短調　作品25

ザ・カレッジ・オペラハウス第26回推薦コンサート 19世紀から現代へ　～架け橋となった作曲家たち～

3月22日(火)19時　全自由席　ザ・カレッジ・オペラハウス
入場料　一般2000円　シルバー・小・中・高校生1000円
*幸楽会、付属音楽院会員はシルバー料金と同額とします。
ソプラノ　三村浩美　南奈緒
ピアノ・ソロ　森上芙美子　原真奈美　バリトン　福嶋勲
A.シェーンベルク:3つのピアノ曲　作品11
F.プーランク:歌劇「人間の声」
G.C.メノッティ:歌劇「電話」　ピアノ伴奏　關口康祐
S.バーバー:ピアノ・ソナタ　変ホ短調　作品26
監修／中村敬一

大阪音楽大学 第42回吹奏楽演奏会

2月27日(日)14時　入場料　1000円　指定席
兵庫県立芸術文化センター　KOBELCO　大ホール
【チケット取扱い】
チケットぴあ　☎0570-02-9999　Pコード125-709
大阪音楽大学コンサート・センター　☎06-6334-2242
指揮　北野徹　丸谷明夫
演奏　大阪音楽大学吹奏楽団
P.A.グレインジャー:リンカンシャーの花束
O.レスピーギ:交響詩「ローマの祭り」(森田一浩編曲)　ほか

大阪音楽大学短期大学部 第16回吹奏楽演奏会

3月6日(日)14時　ザ・カレッジ・オペラハウス
入場料　1000円　全自由席
指揮　丸谷明夫　小野川昭博
演奏　大阪音楽大学短期大学部吹奏楽団
F.ティケリ:シェナンドーア
N.ヘス:イーストコーストの風景　ほか

オペラ物知り講座　第6期 第4回　指揮者の仕事「マエストロ～牧村邦彦さん」

1月18日(火)18時30分　ミレニアムホール
講師　中村敬一　ゲスト　牧村邦彦(指揮者)
演奏　ソプラノ　平野雅世　ピアノ　岡本佐紀子
受講料　1000円　*事前の申し込みが必要です。

第42回　ミレニアムホール特別講座 『クラリネット「解体新書」!』

2月26日(土)14時　ミレニアムホール
講師　日下部吉彦
演奏　クラリネット　上田希　ピアノ　藤井快哉
受講料　1000円　*事前の申し込みが必要です。
<申し込み・問い合わせ>エクステンション・センター
☎06-6334-2251　FAX06-6334-2542

大阪音楽大学音楽博物館 第68回ミュージアム・コンサート 「アーリー・ギターの愉しみ」

2月12日(土)14時　音楽博物館　受講料1000円
お話と演奏　高本一郎

第30回ミュージアム・セミナー 「メコン川が運ぶケーンの響き」

3月19日(土)14時　音楽博物館　受講料1000円
お話　西岡信雄
演奏　ラオス伝統芸能団"ドクパーペッポントン"
<申し込み・問い合わせ>音楽博物館
☎06-6868-1509　FAX06-6865-1221
*事前の申し込みが必要です。

◇大阪音楽大学主催演奏会のチケットは電話、Fax、はがきでコンサート・センターへお申し込みください。ホームページからもお申し込みいただけます。http://daion.ac.jp[大阪音楽大学コンサート・センター]〒561-8555　豊中市庄内幸町1-1-8　☎06-6334-2242　FAX06-6334-2164

石橋栄実助教らが大栗裕作品を歌う

NHK「よみがえる『ラジオ歌謡』」

ソプラノ歌手の石橋栄実助教がNHK大阪放送局（BK）の「よみがえる『ラジオ歌謡』とその時代～大阪発・60年ぶりの復活演奏～」に出演。10月23日総合テレビ（関西地域向け）、11月3日がBS2（全国放送＝完全版）でそれぞれ放映されました。

85年の歴史があるBKの倉庫から、「ラジオ歌謡」のために作曲された楽曲の数々や朗読付きの歌物語、大阪弁の会話がいきているラジオ音楽劇など、手書きの楽譜が100点以上見つかりました。それらを中心にBKの委嘱で20世紀半ばに生まれた作品を復活演奏しました。また、戦前の大阪の街並みなど、歴史的な映像も豊富に交えて放映されました。

石橋助教がNHK大阪ホールで収録したのは8月5日。大阪センチュリー交響楽団（本名徹次指揮）とザ・カレッジ・オペラハウス合唱団をバックに「たそがれのワルツ」や「鏡」、「夏のルムバ」を始め、大栗裕作曲のオペラ「夫婦善哉」やラジオ・ミュージカルス「待てど暮らせど物語」などを歌いました。大栗は大阪を代表する作曲家で、54年から死亡するまでの28年間、本学講師を務め、自筆譜の作品などは本学音楽図書館に保管されています。

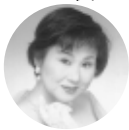
また、テノールの松本薫平さんやアルトの野上貴子さん（92年大卒・声楽）らオペラハウス合唱団登録正団員も出演。大栗作品を演奏の際には本学の様子も紹介されました。

㊤オペラハウス合唱団をバックに歌う石橋栄実助教㊦松本薫平さんと。

「子どものための優れた舞台芸術体験事業」を終えて　安藝榮子 講師

奈良の小学生　本物のオペラを体験

10月21日、11月8、16、25日の4回、文化庁が実施する「子どものための優れた舞台芸術体験事業」の企画プロデューサーとして、奈良県大和郡山市立片桐西小学校に行ってきました。5年生100人を対象に、3回のワークショップを経て、4回目に全校生、PTA、地域の方々の前でオペラの発表会をするという企画。題材はモーツァルトの「魔笛」を選び、小学校の授業にスッポリ入る40分間のパフォーマンスにまとめました。



小学校音楽科の先生に、子どもたちの役の割り振りをお願いしました。ヘビ役21人、童子役13人、森の動物役7人、小鳥役12人、パパパの子ども役34人、ナレーション13人の大所帯。さらにアコーディオンやタンバリン、鈴などの楽器で「雷鳴」などの効果音もつくり、たて笛でファンファーレやパパゲーノの鳥笛を演奏して、最後の演奏会に向け練習を重ねました。片桐西小学校の子どもたちの身体能力も高く、先生方のご協力を得て、ゼロの状態から、最大限のすばらしい結果を得ることができたと思います。

子どもたちと協力をしてステージを作ってくださったのは、プロのオペラ歌手のみなさん。福永修子、田代睦美、神原由紀子、菅野千賀、細川勝さんは本学出身、二塚直紀さんはびわ湖ホール所属です。指揮は森和幸さん。ピアノ伴奏の竹村美和子さんと演出助手の本城聖美さんも本学出身です。

また稽古初日から子どもたちを驚かせたのは「本物の舞台衣装」（松田優アトリエミック提供）でした。練習が進むにつれ、本物の舞台衣装に身を包んだ本物のオペラ歌手との共演という大きな経験に、子どもたちも目を輝かせました。この貴重な体験が子どもたちの記憶に深く刻まれ、次代を担う芸術家が生まれてくれることを心より願いつつ、また機会があれば、どこかの小学校に行って『パパパのおはなし』を子どもたちと創ってみたいと思っています。

第33回邦楽演奏会

第33回邦楽演奏会は11月26日、ミレニアムホールで催されました。今回は大学と短大の1年生3人が同ホールでの初舞台を踏み、フレッシュな演奏を披露しました。

第1部は光崎検校の五段砧。次いで1951年（昭和26年）に大阪で開催された聖徳太子1330年忌の記念芸術祭に発表された宮城道雄の「飛鳥の夢」や、在原勾当の「松の寿」を演奏しました。

第2部では長澤勝俊の「春三題」と邦楽専攻生、教員、演奏員、それに打楽器専攻の学生らも加わって長澤の四季シリーズ4曲目に当たる「春の一日」を合奏しました。

「LICはびきの」洲本市文化体育館 学修の成果2カ所で披露

私たち大学音楽専攻科生は毎年、学修の成果を学外で発揮するオータムコンサート（音楽実践演習）を行っています。今年は10月16日に羽曳野市のLICはびきの、11月27日に兵庫県洲本市文化体育館文化ホール（淡路島）の二カ所で開催させて頂きました。

LICはびきのでは、サブタイトル「音楽はいつもそばに」にちなんで馴染みの深い曲目を多くプログラムに取り入れました。クラシック音楽からアニメソングなど、誰もが一度は耳にした事のある曲を解説し、より音楽を身近に感じていただけるよう工夫しました。

洲本市文化体育館では、クラシック音楽を中心にプログラムを組みましたが、ホール側のご協力により様々な色の照明を付け加えて頂いて、より本格的な演奏会を作り上げることができました。いずれの演奏会も、普段あまり関わることの少ない裏方の面や、一つの演奏会を作り上げるまでの苦労を経験することができ、今後の人生において大変意義のある演奏会となりました。

大学音楽専攻科生　峯　慎吾
野口　麻衣

須山知行一周忌追善演奏会に長蛇の列

名誉教授だった須山知行一周忌追善演奏会が10月24日、大阪市中央区の国立文楽劇場で行われました。芸道に対する真摯な姿勢と情熱にあふれた須山知行氏の人柄をしのぶ人たちが開演前から会場に長蛇の列。

演奏会は沢康雄の作品を邦楽器用に編曲した「恩徳讃」で幕開け。2曲目は「春の海」。この曲は須山氏の師匠である宮城道雄の代表作で1930年（昭和5年）の歌会始のために出された勅題「海辺巌」に因んで前年暮れに発表された箏と尺八の二重奏曲。中島警子名誉教授を中央に、小牧万須美講師、尺八の星田一山講師ら計88人が出演しました。

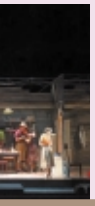
次いで「和楽器のための三重奏」「残月」「遠砧」「月」「里の暁」と進み、最後は宮城作曲の大作「日蓮」。53年（昭和28年）に「日蓮聖人銅像建立50年慶讃の集い」で初演されたもので、指揮は松尾昌美名誉教授、独唱・田中勉教授、箏独奏・中島名誉教授、打物・北野徹教授、十七絃・村上洋子講師、胡弓・小牧講師、笙・林絹代講師、尺八・星田講師。合唱には卒業生も加わりました。

電車

出　中村　敬一
ウス管弦楽団

20世紀オペラ最後の傑作「欲望という名の電車」（全3幕）が11月12、14日ザ・カレッジ・オペラハウスで関西初演されました。1951年に映画化され大ヒットしたT・ウィリアムズの戯曲をもとに、米国の作曲家A・プレヴィンが音楽をつけ、98年にオペラ化した作品です。

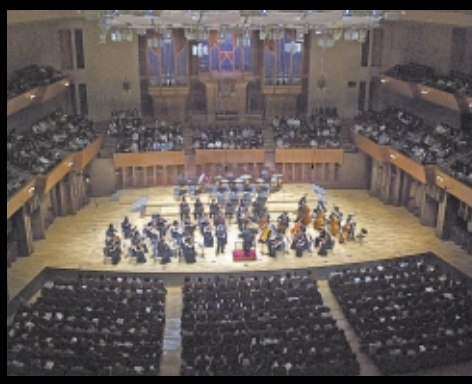
舞台は2部屋しかないニューオリンズのアパート。家も財産もなくした名家出身の主人公ブランチ（松田昌恵）がこのアパートに住む妹ステラ（石橋栄実）のもとに身を寄せま



ブランチ・松田昌恵准教授　この作品がオペラの関西デビュー。この1年、スコアを触らない日はありませんでした。難しい役だけに、とてもやりがいがありました。

スタンリー・藤村匡人さん　荒くれで屈折した自分にない人間像を、どう表現するかで苦心しました。英語には歌いにくい二重母音などもあり、これも苦労の一つ。

大阪音楽大学
第53回定期演奏会



大阪音楽大学第53回定期演奏会は12月3日、ザ・シンフォニーホールで開催されました。学生らが日頃の成果を学内外に発信する最も重要な行事。また、世界を代表するクラリネット奏者、パスカル・モラゲス客員教授の独奏も相まって会場は満員の盛況でした。

演目はO・ニコライの歌劇「ウインザーの陽気な女房たち」序曲、W・A・モーツァルトの「クラリネット協奏曲 イ長調 K622」（クラリネット独奏 モラゲス客員教授）、H・ベルリオーズの「幻想交響曲―ある芸術家の生涯のエピソード 作品14」。大阪音楽大学管弦楽団の演奏で指揮は小田野宏之特任教授。

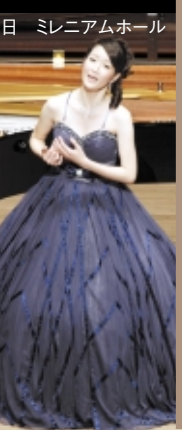
演奏の喜び　分かち合えた

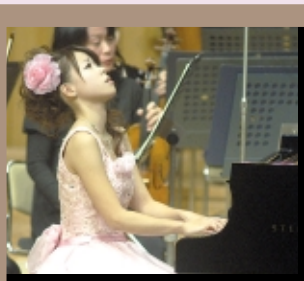
モラゲス客員教授　学生たちが十分に音色を感じ取ってくれ、楽しく演奏できました。音楽そのものも生き生きして、演奏の喜びを分かち合うことが出来ました。

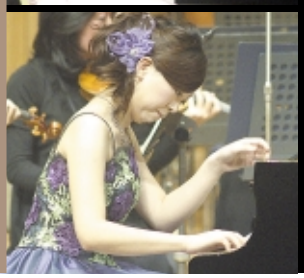
小田野特任教授　本番がベストでした。みんなには音を出すだけでなく、情景や音色で表現しようと言っていましたが、きちんと出来ていてよかったと思います。

ジ・コンサート

日　ミレニアムホール







第22回ザ・コンチェルト・コンサート

4人の選抜学生が小田野宏之特任教授の指揮でザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団と共演しました。

フルートの田中梨沙さん（大4）は20世紀を代表するイベールの世界をかっこよく、角武さん（大4）はジョリヴェの曲で打楽器の可能性に挑戦。ピアノの伏見千紗都さん（大2）はモーツァルトのシンプルな音の美、優雅な音色づくりを、平垣友里さん（大専）はベートーヴェンのたくましさを客席に届けました。

11月22日 ザ・カレッジ・オペラハウス

す。ステラの夫で粗野な工場労働者スタンリー（藤村匡人）とはうまくいきません。板挟みに遭い、悩むステラ…。

愛と憎しみ。男女の間で繰り広げられる様々な人間像が、まるで映画のシーンのようにめまぐるしく変わります。リアルな会話、華やかで色彩豊かな音楽と照明が臨場感をあおり、観客はいつの間にか舞台の中に引き込まれます。出演者はこの作品のテーマでもある人間くささを見事に演じきりました。

20世紀オペラ・シリーズ

欲望という名の

指　　揮　大勝　秀也　　演
管 弦 楽　ザ・カレッジ・オペラハウ
制作統括　荒田　祐子

「人間ドラマ」演じる

指揮・大勝秀也さん とても複雑な音楽ですが、オーケストラの皆さんは練習の時から楽譜をよく見て準備してくれたので、本番は息がぴったり。最高のできでした。

演出・中村敬一さん 心の変化、スピード感のある言葉のキャッチボールは映画以上におもしろかった、といってくださり、とても嬉しい。大人と仕事をした気持ち。

第21回ザ・カレッ

第21回ザ・カレッジ・コンサートではオーディションで選ばれた3人の学生が出演。ピアノの西根里絵さん（大1）は大胆かつ奔放にベートーヴェンのピアノ・ソナタ「ワルトシュタイン」を独奏。クラリネットの山下美緒さん（大2）は軽快に戯れるロッシーニと叙情的で情熱的なシューマンを対照的に演奏。ソプラノの林佑子さん（大4）はレスピーギを陰影深く、山田耕筰を艶やかに、プッチーニをドラマチックな表現で独唱しました。

第7回ザ・ローレル・コンサート

09年度大阪音楽大学音楽学部最優秀賞受賞者演奏会「第７回ザ・ローレル・コンサート」は10月27日、18時からザ・カレッジ・オペラハウスで催され、４人が出演しました。

テノールの小林峻さん（院1・声楽）はG・ビゼーの交響的頌歌「ヴァスコ・ダ・ガマ」より「心を開いておくれ」など5曲を熱唱。「新しい目標というか、次の課題も見つかりました。特に、ランメルモールのルチアは正確なテクニックと情感の入れ方があると思うので挑戦します」

福田容子さん（院1・ピアノ）はF・シューベルトの「ピアノ・ソナタ 第20番 イ長調 D959」を選曲。「自分の好きな大きい曲をもってきましたが、正直、力不足だったと感じています。でも、今の自分の力を出せたし、シューベルトの世界観も伝える努力はしました」

松本栄成さん（院1・作曲）は「〈ペネトラシオン〉…沈殿する陰翳」を新作初演。「皆さん、すばらしい演奏者で、短い期間に最大限、私の世界観を表現してくれました。この演奏会で、自分の新たな作品の方向性を見極めることが出来ました」

藤田紗織さん（10年大卒・フルート）はC・サン＝サーンスの「序奏とロンド・カプリチオーソ」など3曲を演奏。「出番の約10分前に楽器が壊れ、楽器店の人が届けてくれました。自分の楽器と違うのでどきどきしましたが、共演者が私の音楽についてきてくれ、感謝しています」

卒業生 交流にひと役

丹波の森国際音楽祭

普段着姿で音楽楽しむ

丹波の森国際音楽祭「シューベルティアーデたんば」をご存知ですか。本学出身のテノール歌手、畑儀文さん（79年院修、武庫川女子大教授）が総合プロデューサーを務める音楽イベントのことです。16回目の今年は「丹波の森の音あそび」をテーマに9月25日から11月13日まで兵庫県篠山、丹波両市の28会場で催されました。本学卒業生も出演しているというので、会場をのぞいてみました。

9月26日は「アンサンブルの夕べ」。300年前に建てられた柏原藩陣屋敷跡が会場で、ヴァイオリン赤松由夏さん（97年院修）、チェロ後藤敏子さん（84年院修）、ピアノ城村奈都子さん（武庫川女子大伴奏員）が出演。シューベルトの歌曲「鱒」、シューマンの「トロイメライ」、J・シュトラウスのワルツ「美しく青きドナウ」、プッチーニ「誰も寝てはならぬ」など14曲を演奏しました。

屋敷の庭に設けられた客席は普段着姿の地元の人たちで満席。「ヴァイオリン、チェロの優しい響きが木のぬくもりと上手に溶け込み、心を洗われました」と皆さん。

ソプラノの田邉織恵さん（00年院修）が登場したのは10月3日の春日街角野外コンサートで、テーマは「音の玉手箱」。

雨に見舞われ、出演者も観客も散々でしたが、田邉さんは童謡「赤とんぼ」、鈴木英明名誉教授作曲の歌曲「大阪ことばあそび」、ヘンデルのオペラ「リナルド」のアリア「私を泣かせてください」などを熱唱。鍵盤ハーモニカの谷風佳孝さんとの息もぴったり。会場を沸かせてくれました。

音楽祭にはチェロの成川昭代さん（81年短卒）、ハープ春木浩子さん（87年院修）、ソプラノの中村朋子さん（94年院修）、テノール中塚昌昭さん（94年院修）たちも出演、地域との交流にひと役買っていました。

約1カ月半にわたって催された音楽祭は11月13日に丹波の森公苑ホール（丹波市柏原町）でフィナーレを迎えました。この日のテーマは「幼なじみの音あそび」。リコーダーや鍵盤ハーモニカなど、教育教材にスポットを当てた楽しいプログラムが用意され、子どもたちもお待ちかねです。安永早絵子さん（93年大卒）率いる打楽器グループ「Beat Jack」は演奏と楽しいパフォーマンスで、テノールの畑さんは「野ばら」「菩提樹」「セレナーデ」などを歌い、会場を盛り上げます。

クライマックスは2010年「ますの旅」。シューベルトの歌曲「鱒」を鍵盤ハーモニカの河口結子さん（85年大卒・作曲）が音楽祭のために編曲したもの。「鱒」が上海、ドバイ、アイスランドと世界中を旅するかわいい曲で、これを鍵盤ハーモニカ、パーカッション、リコーダーの11人がにぎやかに大合奏。客席の子どもたちもリズムを取り、会場が揺れ動きます。

「歌の街丹波」を目指す国際音楽祭。今年も音楽を通して様々な出会い、様々な喜びがありました。

音楽の宝石箱

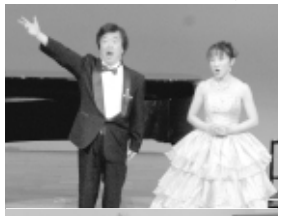
共催　大阪音楽大学
高槻市立生涯学習センター

歌い継ぎたい心の歌、日本の歌

10月22日　西垣　俊朗講師

「明治時代は外国の曲に日本人が詩をつけて歌った借り物の時代・大正、昭和は戦争を避けて通れません」。

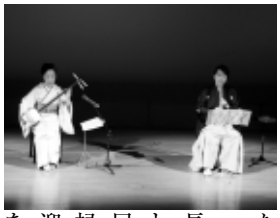
佐田めぐみさんのピアノでテノール西垣講師、ソプラノ影山貴美子さんが竹下夢路の実らぬ恋歌「宵待草」、日本人による歌曲「富士山見たら」、平成のヒット曲「千の風になって」などを紹介しました。



三絃の世界

10月29日　小牧万須美講師

三味線は室町時代末期の16世紀後半に中国、琉球から大阪・堺に伝わりました。当時、堺の港は東南アジアなどとの貿易の窓口でした。

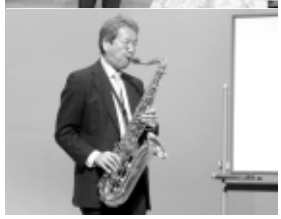


三味線は歌舞伎、長唄、浄瑠璃などとともに江戸時代、民間に普及し、元禄時代に最盛期を迎えました。地歌を演奏するものは三味線と言わずに三絃と表現すると紹介、尺八の星田一山講師と菊岡検校作曲の「夕顔」などを合奏しました。

ジャズ演奏の分解と組み立て！

11月12日　赤松　二郎教授

ジャズの基本は3、5、7度を半音低めたブルー・ノートのメロディーと、裏拍のアーティキュレーションをきかせたスイングのリズム。これをベースに魅力的なアドリブを展開していきます。



赤松教授のサクソフォーンに森宏教授のピアノ、木村知之講師のベース、東敏之講師のドラムスでスタンダード「マイ・リトル・ブラウン・ブック」などを演奏しました。

連弾弾丸トーーーク!?

11月19日　木村　貴子演奏員
關口　康祐演奏員

シューベルトの「軍隊行進曲」は彼が好きな女の子と触れ合うために書いた連弾曲でした。連弾は意外と重労働。パートナーの爪が当たり、時には凶器になることも。

超「舌」技巧の2人がブラームスの「愛の歌」などを演奏。オーディオ機器を駆使して連弾の楽しさ、おもしろさを紹介しました。

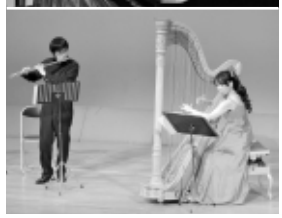
音楽・心の旅

豊中市立中央公民館
豊中市立千里公民館

音色のファンタジア

11月26日　宇野友基子演奏員

幻想的なイメージを持つハープは最古の楽器の一つ。カエデと松でできており、弦は47本。足元には7つのペダルがついています。



後半はフルート奏者、江戸聖一郎さんとのデュオ。G・ビゼーの戯曲「アルルの女」、J・マスネの「タイスの瞑想曲」、宮城道雄「春の海」などを演奏しました。夢の中を漂うようなハープとフルートの心地よい音色に会場はうっとり。

リコーダーその歴史と音楽への探訪の旅

11月2日　田村　義一講師

13世紀には歌、踊りなどに付随していた楽器が独立して発展。また、ルネサンス期の楽器が転換期を迎え、音域の拡大、表現力の豊かな楽器として登場してきた時でもありました。

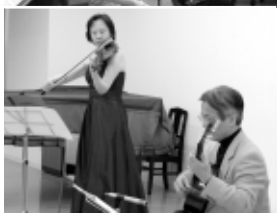
当時の民衆の叫び声、宮廷の生活や教会の様子を想像して聴いてほしい、と愉快な舞曲、バロックの音楽を演奏。18世紀中ごろ姿を消したリコーダーがドイツの音楽教育で用いられるなどして復活した話も。

ヴァイオリンとギターのおしゃべり

11月9日　赤松　由夏講師

まず、ヴァイオリンは1500年代に生まれ、材質は表板が松の木、横板と裏板はカエデの木、ヴァイオリンの弓の毛は馬の尻尾だと説明。

演奏旅行で小豆島（香川県）を訪れた際、子どもたちは弦を見て、特産品の「おそうめんだ」と答えたというエピソードを紹介。ギターの松本吉夫さんとヘンデルの「シバの女王の入場」や山田耕筰の「からたちの花」などを演奏しました。



林さん（ソプラノ）学生音コン1位

第64回全日本学生音楽コンクール全国大会シリーズ（毎日新聞社主催）が11月30日、横浜みなとみらいホールで行われ、声楽部門大学・一般の部に出場した林佑子さん（大4・ソプラノ）が見事1位に選ばれました。声楽部門は10月に東京、大阪など5会場で地区大会を開催。本選を勝ち抜いた11人が全国大会に挑みました。

大阪大会を1位で通過した林さん。全国大会では別宮貞雄の歌曲「さくら横ちょう」、G・ヴェルディ「仮面舞踏会」から「ここは、罪が死によって償われる場所」を歌いました。

横浜みなとみらいホールは林さんにとって二度目の舞台。9月5日に行われた第12回日本演奏家コンクールが最初で、このときも1位に選ばれています。「同じ舞台。声の響きがわかっていたので、力まずに気持ちよく歌えました」

中でも「さくら横ちょう」は2年の時から歌っている大好きな曲。春、自宅近くの山に咲き誇る奈良県吉野の桜を思い浮かべながら歌ったそうで、抒情的でやわらかなソプラノが客席を魅了しました。

夢は感動与えるオペラ歌手

「自分の能力を最大限に発揮できる歌を本選に持ってきたところは素晴らしい。舞台人として華があり、他の誰よりも際立っていました」と審査員。

夢はオペラ歌手。「自分の表現で聴く人に感動を与えられる、そんな歌手を目指したい」と林さん。

入賞者演奏会と表彰式は11年1月8日にザ・フェニックスホール（大阪市北区西天満4）で行われます。

加門さんが優勝 鳥栖ピアノコンクール

第16回フッペル鳥栖ピアノコンクール2010（佐賀県鳥栖市など主催）の本選が10月11日、鳥栖市民文化会館で行われ、加門祐香里さん（院1）が優勝しました。本選には予選を通過した7人が出場。加門さんはL・v・ベートーヴェンの「ピアノソナタ No・18」を演奏し、高い評価を受けました。来年3月の九州交響楽団鳥栖定期演奏会にはソリストとして出演することになっています。

「DEBUT」

安積京子さん

（04年院修・ピアノ）

ドイツを拠点にヨーロッパ各地で精力的な演奏活動を展開するピアニスト安積京子さん（04年院修）がファンお待ちかねのファーストアルバム「DEBUT」をリリースしました。

安積さんは卒業後ドイツに渡り、国立ミュンヘン音楽大学大学院を修了。第7回国際ウィーン・ピアニストコンクール2位、第14回ブレスト・ピアノコンクール（フランス）では1等メダルを受賞する実力派。これまでにドイツ・ミュンヘンやウィーンなど、ヨーロッパ各地で90回を超す演奏活動を行ってきました。

「DEBUT」は日本とドイツで発売。「子どもからお年寄りまで幅広く親しんでいただける曲を集めました」というように、アルバムにはショパン「幻想即興曲op・66 嬰ハ短調」、グリーグ「抒情小曲集」をはじめリスト、ブラームス、シューベルトらロマン派の名曲11曲を収録。透明感あふれる音色は聴く人の心を幸せにしてくれます。11年1月には東京でCD発売記念コンサートを予定しています。

CDの発売元はオルプリット。2825円。ネットで購入することができます。ホームページはhttp://www.kyoko-asaka.com

岡村さんが「松方ホール音楽賞」

トロンボーン

2度目の挑戦　念願の賞

「第14回松方ホール音楽賞」（神戸新聞社など主催）の審査会が8月に行われ、岡村哲朗さん（10年大卒・トロンボーン）が金管楽器部門で音楽賞を受賞しました。

岡村さんにとって松方ホール音楽賞は2度目の挑戦。1回目は大学2年の年で、このときは奨励賞に終わりました。

今回は20人が本選の出場。岡村さんは技術的に高度な曲、P・クレストンの「トロンボーンとオーケストラのためのファンタジー」、音楽的に難しいとされるB・マルチェロの「ソナタ　ハ長調」を演奏し、念願の音楽賞を手にしました。

現在、ロンドンに滞在し国際的トロンボーン奏者デニス・ウィック氏のレッスンを受けながら演奏活動をしている岡村さん。「研鑽を積み世界に通用する演奏家を目指したい」と話しています。

授賞式と記念コンサートは11年2月5日に神戸・松方ホールで行われます。

ミュージカル・ソー

齊藤さん、世界大会準優勝

国際ミュージカル・ソー世界大会が8月、米国カリフォルニア州サンタクルズで開かれ、本学演奏員の齊藤舞歌さん（95年院修・フルート）が準優勝と特別賞をダブル受賞しました。

ミュージカル・ソーはノコギリをたわませ、弓でこすって音を出す楽器。大学時代はフルートを勉強し、日本クラシック音楽コンクールなどの受賞歴がある齊藤さんですが、08年に映画「パコと魔法の絵本」の中でミュージカル・ソーの第一人者サキタハヂメさんの音色と出会い、この楽器と本格的に取組むようになった、といいます。

世界大会にはアメリカ、アイルランド、ドイツなどから約40人が出場。齊藤さんはオペラ「魔笛」より夜の女王のアリア「復讐の炎は地獄のように我が心に燃え」などを演奏。技術と音楽性が高い評価を受け、準優勝に輝きました。

「音楽家として、演奏家として、人に感動を与えられる人間になりたいと思っています。のこぎり好きな人をたくさん増やして大音に世界初の『のこぎり科』をつくるのが私の夢」と齊藤さん。

コンクール（敬称略）

■関西歌曲研究会設立40年記念「日本のうたコンクール」　2位　加藤かおり（02年院修・ソプラノ）▽**3位**　藤原未佳子（05年院修・ソプラノ）＝8月1日、ザ・フェニックスホール。関西歌曲研究会主催

■第32回阪神ジュニア音楽コンクール　ショパン部門　金賞　水元靖香（大3・ピアノ）＝8月25日、ピッコロシアター。尼崎ピアノ音楽協会主催

■第23回和歌山音楽コンクール　ピアノ部門大学生以上の部　1位　田所千佳（08年大卒・ピアノ）▽**声楽部門一般の部　2位**（1位なし）　大淵夕季（08年大専修・ソプラノ）＝8月25、26日、和歌山市民会館。和歌山市教育委員会など主催

■第15回高槻音楽コンクール　一般の部　3位　小松加奈（大4・マリンバ）＝8月29日、高槻現代劇場。高槻市コンサート協会主催

■第21回堺ピアノコンクール　F部門大学・一般の部　金賞　田中奈都江（院1・ピアノ）＝9月4日、栂文化会館。堺市ピアノ連盟主催

■第12回日本演奏家コンクール　声楽部門大学の部　1位　林佑子（大4・ソプラノ）＝9月5日、横浜みなとみらいホール。日本演奏家協会主催

■第4回神戸新人音楽賞コンクール　ピアノ部門　優秀賞（最優秀賞なし）　辻未帆（10年院修・ピアノ）▽**管弦打楽器部門　最優秀賞**　中田丈次（09年院修・打楽器）、**優秀賞、聴衆賞**　蔭山真理子（10年大卒・ヴァイオリン）、**優秀賞**　小松加奈（大4・マリンバ）＝9月22日、神戸文化ホール。神戸市、神戸芸術文化会議主催

■第9回宝塚ベガ学生ピアノコンクール　大学生部門　3位　小野文（大3・ピアノ）＝10月3日、宝塚ベガ・ホール。宝塚演奏家連盟など主催

■第11回大阪国際音楽コンクール　管楽器部門金管Age-Uの部　2位（1位なし）小西真利江（大2・テナーバス、トロンボーン）、**3位**　元浄萌恵（大2・ホルン）▽**声楽部門オペラコースAge-Uの部3位**　川口りな（院2・ソプラノ）、**オペラコースAge-Gの部　2位**　久保美雪（96年大卒・ソプラノ）＝10月10、11日、高槻現代劇場など。大阪国際音楽振興会主催

《付属音楽院関係》

■第12回関西弦楽コンクール　ヴァイオリン部門　優秀賞、審査員賞　渡部真由香（小学5年）8月21日、ザ・フェニックスホール。日本弦楽指導者協会関西支部主催

加藤かおり

藤原未佳子

水元靖香

田所千佳

大淵夕季

小松加奈

田中奈都江

林佑子

辻未帆

中田丈次

蔭山真理子

小野文

小西真利江

元浄萌恵

川口りな

久保美雪

渡部真由香

ほん

我が偏愛のピアニスト

青柳いづみこ教授

中央公論新社　2100円

本書はピアノと文壇、この2つの世界で活躍する青柳いづみこ教授が同業ピアニストから本音を引き出すインタビューもの。コンサート前には必ず奥様の前でリハーサルをする超絶技巧の岡田博美さん、ロンドンと東京を拠点に活動する「空飛ぶピアニスト」小川典子さん、指のトレーナーから「千人に一人の手」とお墨付きをいただいた小山実稚恵さんら10人の日本人ピアニストが登場します。

自らを冒険型と呼ぶ花房晴美さんは何事にもそのときの「ノリ」を大事にしているジャズ大好き派。

室内楽を中心に年間40～50回のステージに出演する藤井快哉さん。本格的にピアノを習い始めたのは高校に入ってから。大音時代は先生を驚かせることもありましたが、才能と努力でぐんぐん力をつけ、プロの階段を駆け上ります。

魂をゆさぶるピアニスト柳川守さん。子どものころはピアノがおもちゃ代わり。音当ての遊びをしているうちに絶対音感が身に付いてしまった。戦時中の話で、この耳のよさが軍部に目にとまり、潜水艦のスクリューの音を聞き分けるテストをさせられた、という。

その柳川さんも70代半ば。「自分が本当に感じたこと、ベストだと思うことをやっていればいいんだ、ということがやっとわかって、気が楽になりました」。

同じ現場を知る者だからこそ見えてくる真実。本書にはピアニストが抱くそれぞれの悩み、喜びがぎっしり詰まっています。

超絶ジャズ・ピアノ

石井　彰講師

リットーミュージック・ムック　1680円

短大ジャズ・コースの石井彰講師（86年大卒・作曲）といえば、豊かな表現力と優れたバランス感覚で、多くのファンを魅了するジャズ・ピアニスト。本学作曲科在学中にビル・エバンスの音に衝撃を受け、卒業後はジャズの道を歩みます。98年からは本学教授の日野皓正クインテットに参加。音楽に対する真摯な姿勢はミュージシャンの間でも好感を呼んでいます。

「超絶ジャズ・ピアノ」は、石井講師にとって初めての著書。初心者の壁を超えたい人、さらなる高みを目指す人のために書かれたジャズ・ピアノの教則本。前半はスウィンギンなスケール練習法、ピアノ1台でも雰囲気を演出できるブルーノート・スケールなど29の「超絶フレーズ」を難易度別に紹介。

後半はトレモロで派手さ演出、艶やかなフィンガー・レガートなど一度は真似てみたかったあのテクニックが学べる7つの「大技小技」が収められています。

著者の模範演奏とカラオケのCDが付いており、初心者や中級者にはこたえられない一冊。

出版

ショパン「作品集第2集」

翻訳・校閲　八田惇教授

コルトー版　全音楽譜出版社　2600円＋税

「作品集第2集」には〈演奏会用アレグロ　作品46〉、〈ボレロ　作品19〉、〈3つの新しいエチュード〉、〈プレリュード嬰ハ短調　作品45〉、〈華麗なる変奏曲　作品12〉の作品が収められています。

〈演奏会用アレグロ〉は作品番号から見ると後期の作品と思われるかもしれませんが、ショパンの20歳くらいの協奏曲作品を1842年頃にソロの曲として書き改めたものです。〈ボレロ〉は作品19となっていますが、作曲時期は恐らく1824年頃であろうとコルトーは推測しています。〈3つの新しいエチュード〉はモシュレスらに依頼されて1840年に作品番号のないまま出版されました。

〈プレリュード嬰ハ短調〉は1841年に作られ、30回以上転調する約100小節の短い曲です。最後の〈華麗なる変奏曲〉は1833年に作られましたが、「最も軟弱な曲」と評価されている一方、「ピアノの最も魅力的な音形のちりばめられている作品」とも言われています。そしてこの版の特徴であるコルトーの作品解釈や練習方法なども詳細に書かれています。

一般入試A日程2月9日から

こんにちは、受験アドバイザーのともみです。年が明ければ一般入試A日程の出願が始まります。一般入試A日程では、専門実技と国語・英語などの学力、ソルフェージュや楽典などの音楽的基礎力を問います。面接や、推薦書を提出した上での人物重視の推薦入試とは性質が異なります。

試験当日にみなさんの持てる最高の力を発揮してください。

11年度一般入学試験A日程

試験日 2月9日（水）～2月12日（土）

出願期間 1月18日（火）～1月23日（日）郵送必着
1月24日（月）9時～13時 窓口持参のみ

■2011年度推薦入学試験結果

大阪音楽大学 音楽学部	公募推薦		特別推薦	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
作曲学科	**1**	**1**	**1**	**1**
作曲専攻	0	0	1	1
音楽学専攻	1	1	0	—
声楽学科	**17**	**15**	**15**	**15**
器楽学科	**63**	**56**	**42**	**42**
ピアノ専攻	18	16	30	30
オルガン専攻	0	—	0	—
管楽器専攻	41	37	5	5
弦楽器専攻	1	0	4	4
打楽器専攻	3	3	3	3
邦楽専攻	0	—	0	—
合　　計	**81**	**72**	**58**	**58**

大阪音楽大学短期大学部 音楽科	公募推薦		特別推薦	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
作曲コース	0	—	0	—
声楽コース	16	14	5	5
ピアノ・コース	32	31	13	13
管楽器コース	19	19	27	27
弦楽器コース	1	0	1	1
打楽器コース	4	4	4	4
邦楽コース	1	1	0	—
ジャズ・コース	2	2	1	1
ポピュラー・コース	24	22	10	10
ミュージカル・コース	4	4	1	1
電子オルガン・コース	9	8	1	1
合　　計	**112**	**105**	**63**	**63**

音楽とビジネスのスキルを両方身に
Wキャリア研修説明会

来春音楽大学を卒業する学生に向けて、演奏家に必要なビジネススキルを研修するパソナミュージックメイト「Wキャリア研修プログラム2011」の説明会が、10月8日、F号館215教室で行われました。

講師は人材派遣の株式会社パソナ営業総本部、ミュージックメイト担当リーダーの森口舞さん。今や音楽家もセルフマネージメントの時代、音楽とビジネスのスキルを両方身に付けてこそ、自立した活動ができると説き、自分自身の演奏力を商品として企画し、営業・販売できる人材を育成する同プログラムの内容を紹介。

説明会に出席したピアノ専攻の学生は、「個々の夢に沿ったカウンセリングやバックアップをしてもらえるので、もし関西でも研修があれば参加したいと思いました」と話していました。

高曲さんと大岡さん西宮署長から感謝状
ひったくり犯逮捕に協力

本学の高曲伸和さん（大3・声楽）とパートタイム職員の大岡紋さん（10年大卒・声楽）の2人が11月18日、西宮市内で、ひったくり犯3人の逮捕に協力したとして兵庫県警西宮警察署の渡邊敏信署長から感謝状を贈られました。

高曲さんと大岡さんの2人は9月24日、飲み会をしていた西宮北口で、酔い覚ましに店外に出た仲間の後を追ったところ、「ひったくりや」の声。その前方を3人がスクーターなどで逃げるのを見て追いかけました。うち、1人がカーブでスクーターもろとも転倒、大岡さんがスクーターをつかみ、高曲さんが男を捕らえようとしましたが、逃げたため110番通報。駆けつけた県警機動パトロール隊が緊急配備し、近くにいた3人を強盗致傷容疑で逮捕しました。

3人は19歳の未成年と21歳、23歳の男。同市内でスナック経営の68歳女性から5万7千円入りのカバンをひったくり、転倒した女性の手にけがをさせた疑いです。

卒業生た・よ・り

松平季子さん（72年大専修　声楽）
石田文子さん（01年大卒　ピアノ）

ローマで活躍する友と再会

イタリア統一140年を祝う旗が、町中ではためく9月のローマ。ローマ在住33年になる同級生の中村清美さん（72年大専修　声楽）を久方ぶりに訪ねました。今、中村さんは、国営放送局・イタリア放送協会（RAI）の音楽番組編成プロデューサー。クラシック音楽だけを一日24時間放送する局として、音楽愛好家に人気のラジオRAI Filodiffusione のV Canalがその職場。オペラに関する番組編成の責任者として17年にわたって活躍を続けています。

中村さんは77年ローマに留学、サンタチェチリア音楽院でディプロムを受け、83年にRAI声楽アンサンブルコンクールで優勝。その後RAI声楽アンサンブルの正式団員として契約し、歌手としてローマで活動を開始。ソリストとして、RAI交響楽団等との共演を重ね、高く評価されてきました。

当時、イタリア放送協会は、オーケストラとコーラス各4団体を持つほど豊かな音楽環境でしたが、イタリア経済が下降するにつれ、縮小せざるを得なくなりました。中村さんの所属する団も解散を余儀なくされましたが、幸運なことに中村さんは放送局に新しい活躍の場を得て、番組編成の責任ある現職につくこととなりました。

今、担当している番組は、①オペラ・オペレッタ全幕　②オペラ・アリア・リサイタル　③オペラ名場面集　④名歌手の競演聴き比べ集　⑤オペラ合唱集など、オペラファンには聞き逃せないプログラムばかり。音源も、歴史的なモノラル録音盤から最新録音盤に至る広い範囲から選び、リスナーの要求にこたえています。番組編成上の苦労話を聞くと、「往年の名歌手から現代のスター歌手まで、様々な歌手を登場させ、同じオペラでも配役を変え歌手を聴き比べられるようにするなど、耳の肥えたイタリア人を楽しませるよう工夫する」とのこと。ご主人はローマっ子で大のオペラファン。ご主人の助言が仕事に役立っているとか。

リサイタルで歌う中村さん

ローマで再会した松平さん（左）と中村さんリプブリカ広場の噴水前で

ローマでは伊放送局のラジオプロデューサーにイタリア語の生活ですが、日本語で話し始めると、学生時代と変わらない柔らかい京言葉の中村さんから、「日本とイタリアは離れているけれど、ローマ放送局のホームページから5 canalにアクセスして、ローマの番組を聞いてみてください！」とのメッセージ。歌手活動も続け、小柄ながらエネルギーいっぱいの中村さんの『ローマ音楽暮らし』は、まだまだ続きます。

ローマ放送局ホームページ　www.fioldiffusione.rai.it

ドイツでチェンバロ奏者

こんにちは。02年からドイツに留学していますが、一時帰国した実家で「Muse」を読み、思い立ってメールをしてみました。

02年から05年までドイツのデトモルト音楽大学ミュンスター分校でピアノを学びました。その後不思議なご縁で、ケルン音楽大学のチェンバロ科に転向。ピアノばかり弾いていた自分が、チェンバロという新しい楽器に転向するなど考えられないことでしたが、師事したKetil Haugsand先生に背中を押していただき、現在は通奏低音奏者として、ヨーロッパで演奏活動をしています。去年はバロック音楽劇にも挑戦しました。

現在は室内楽科、チェンバロ科の大学院に在籍中ですが、残り少ない学生生活を有意義に過ごしたいものです。そして今後はこちらに留学を希望される学生の方々に情報を提供するなど、何か手助けができればとも思っております。

＊石田さんにご連絡したい方は、幸楽会事務局（19頁左下）へ。

大阪音楽大学後援演奏会

The TARO Singers New Year Concert
1月9日（日）14時　3000円
兵庫県立芸術文化センター　大ホール
指揮 里井宏次 合唱 ザ・タロー・シンガーズ
鐘が鳴ります　椰子の実　ほか日本の抒情歌

グルマンディーズ～音楽のごちそう～
1月15日（土）18時30分
尼崎ピッコロシアター小ホール
一般2000円　学生1500円
井上麻子　髙橋孝輔　上田浩子　藤井快哉
☎06-6426-1940　ピッコロシアター

声の迷宮　声の可能性を探る旅
1月30日（日）16時　南港サンセットホール
一般2000円　学生1000円
諸橋玲子　南川弥生　小里明子
☎06-6844-0320　諸橋

ヴィニーチョ・アレグリーニ&アンサンブル・サビーナコンサート
2月19日（土）14時　アゼリアホール
3500円（前売3000円）
ハイドン:トランペット協奏曲　ほか
☎06-6844-8787　アンサンブル・サビーナ

Impressions～上田浩子クラリネットリサイタル
2月25日（金）19時　ザ・フェニックスホール
3000円（前売2500円）学生1500円
上田浩子　藤井快哉
☎06-6436-0536　上田

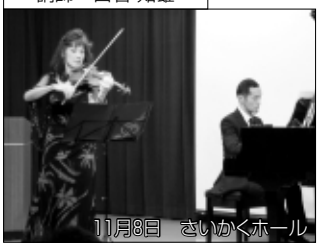
公開講座フェスタ2010

「エキスポ・クラシック」

―音楽家から見た大阪万博―

今年はちょうど大阪万博から40年。さまざまな音楽が万博会場に鳴り響き、フェスティバルホールでも連日クラシックの演奏会が開かれました。それが「エキスポ・クラシック」です。地元関西の音楽家たちはどんな活躍をしたのでしょう。たとえばお祭り広場では日本とヨーロッパの友好の場面を演出した「南蛮祭り」。フェスティバルホールでは大阪出身の作曲家、大栗裕のオペラ「地獄変」が朝比奈隆指揮、関西歌劇団で上演されました。西洋音楽のスタイルながら冒頭には箏の音が流れます。こうしてみると、「人類の進歩と調和」という万博のスローガンの中で、関西の音楽家たちは和洋折衷、海外との融和を表現する「調和」の部分を担ったようです。

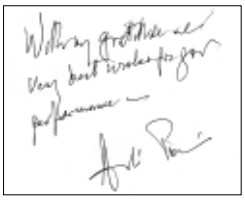
講師　白石 知雄


11月8日　さいかくホール

前半では万博に先立ち、戦前、戦後の関西の音楽界を盛り立てた貴志康一の「竹取物語」や、大栗裕の「青衣の女人」などが、北浦洋子講師のヴァイオリン、藤井快哉助教のピアノで演奏されました。

中村学長　プレヴィン氏と歓談

中村孝義学長が11月7日、20世紀オペラ「欲望という名の電車」の作曲者、巨匠アンドレ・プレヴィン氏を表敬訪問しました。NHK交響楽団首席客演指揮者のプレヴィン氏は当夜、NHK大阪ホールで行われたN響大阪公演で、ブラームスの交響曲を指揮。中村学長は終演後、楽屋を訪ね、プレヴィン氏と本学で11月12、14日に上演する「欲望という名の電車」について歓談。残念ながら日程の都合でご覧いただくことはできませんでしたが、上演を喜ぶ同氏から「成功を祈る」と書かれた直筆のメッセージをいただきました。



狂言師　茂山千之丞氏が死去

大蔵流狂言師、茂山千之丞氏が12月4日、死去されました。87歳でした。茂山氏は本学講師として演技演習の授業を担当し、69年から92年まで教鞭をとられました。89年に行われたオペラハウスこけら落とし公演では、開幕を寿ぎ狂言式楽「三番三」を上演。06年の20世紀オペラ公演では大栗裕の「赤い陣羽織」と、自ら台本を書き上げた新作オペラ「鬼娘恋首引」の演出を手がけるなど、在職中はもとより、退任後も本学の教育、舞台活動に大きく貢献されました。様式美とユーモアあふれる「鬼娘恋首引」の華やかな舞台は、記憶に新しいところです。演出中も衰えを知らぬ朗々とした美声で、演技指導されたそうです。ご冥福をお祈りします。

《幸楽会》後援演奏会

New Year Concert vol.2 映画音楽とともに
1月16日(日)14時
門真市民文化会館ルミエールホール
一般1000円　小学生・60歳以上500円
石場文恵　北奈賀子　星村倫子　大西奈穂子
河原美貴　小山初美　蒲生祥子　大江浩志
☎072-856-1672　山添

ピアノデュオ　ハートフルコンサート
1月16日(日)15時　2500円
カルチャーサロン　アトリエミック
松野友美　小寺智絵　☎0797-87-8663

ヴィオラ&ピアノ アンサンブルのタベ
2月24日(木)19時　2500円
岸和田自泉会館ホール
リーナ・ゴロヴィナー　目華子　李胎蓮
FAX072-415-2328　Hanako Piano Room

ポピュラー特別講義

実験的グループ結成
村上"ポンタ"秀一氏

トニー・グッピー氏

村上"ポンタ"秀一氏

11月17日　K号館202教室

セッションドラマーとして坂本龍一ら著名なミュージシャンと共演し、サウンド・プロデューサーとしても活躍する村上"ポンタ"秀一氏が、新しい音楽表現を求めて、実験的グループを結成。ポピュラーの特別講義で初のライヴ演奏を披露しました。メンバーはドラムの村上氏、トリニダード・トバゴのスティールパン・ソロコンテストで優勝したトニー・グッピー氏、ギターの荻原亮氏、ゲストヴォーカルのマキ氏というユニークな編成。「楽曲は生きもの。毎回演奏が違う」という村上氏。新グループで、フリージャズの「ランブリン」や「ビウィッチド」などを演奏。ジャンルを越えた刺激的なセッションを展開しました。

大学祭

「音楽」たっぷり

大学祭2010「evolution」が10月29日から10月31日まで3日間、開かれました。初日は学内屈指の人気ピアノデュオ「いまいまいま」のライヴでスタート。ポップスやロックの熱いステージが繰り広げられました。C号館のお化け屋敷は、めっぽう怖いとの評判で長蛇の列。ぱうぜでは、古式ゆかしい装束の学生や教員が厳かに雅楽を奏で、卒業生

雅楽～ロック

ら4人のUntitle Groupが、大人のポエジー漂うシックなジャズで酔わせました。

最終日はミレニアムホールで吹奏楽の学祭公演。ディズニーやスーパーマリオの演奏が始まると、ミッキーやマリオに扮した学生たちのパフォーマンスに、観客は大喜び。音楽ぎっしり、おもてなしの心たっぷりの大学祭でした。

大阪音楽大学卒業生による「若い芽のコンサートvol.21～巨匠への挑戦～新たなる可能性を求めて」は10月9日、ミレニアムホールで催されました。

若い芽のコンサートvol.21

司会者が「巨匠の曲を自分たちの言葉でどこまで表現できるかに焦点をあてました」とあいさつ。まず、足立有美さん（ソプラノ）と中林美奈さん（ピアノ）がW・A・モーツァルトのモテット「踊れ、喜べ、汝幸いなる魂よ」K・165（158a）、生川真弓さんがS・プロコフィエフのピアノソナタ 第6番 イ長調 作品82の第1・4楽章、堀田温義さん（バリトンサクソフォーン）と竹内愛未さん（ピアノ）がJ・ブラームスのピアノとチェロのためのソナタ第1番 ホ短調 作品38を演奏。

休憩の後、辻合佑璃さん（フルート）と田久保友妃さん（ヴァイオリン）、植田祐加里さん（ピアノ）の3人がJ・イベールの2つの間奏曲など、相地愛子さん（ピアノ）がE・グラナドスの演奏会用アレグロ、F・リストのハンガリー狂詩曲 第2番 嬰ハ短調を披露しました。

第29回ミュージアム・セミナー「ケルトの伝統音楽」

ケルト音楽とは、主にアイルランド、スコットランド、フランスのブルターニュ地方に伝わる伝承音楽のこと。華やかなダンス音楽でおなじみですが、演奏に使われる代表的な楽器は「バグパイプ」。袋と管が一対になった管楽器で、袋を押すことによって空気を送り、音を出します。スコットランドのリール・パイプ、アイルランドのイリアン・パイプなどがあります。

演奏はティン・ホイッスルの演奏家hataoさん、バグパイプの世界的演奏家デイック・ヘンソールドさん（米・ミネソタ州在住）、演奏の傍らバグパイプなどの楽器製作も手がける松阪健さんとピアノの上原奈未さんの4人。

hataoさんの解説を交えながら、スコットランドの伝承曲「曲がった川」、イングランドに200年前から伝わる「騎手との一夜」など27曲を演奏しました。透明感のある乾いた音色に客席は懐かしさを。

11月16日 音楽博物館

楽器を奏でる人形たち

羊飼いの笛

この笛はルーマニアの国民的楽器として知られるパンパイプの仲間「ナイ」です。一時は姿を消しましたが、名手の登場で20世紀後半に復興しました

西岡信雄コレクションより（音楽博物館所蔵）

次号発行予定2月15日